<技術の定着支援により経営安定を図る活動>

生産基盤強化による持続的な農業の確立

～畑作物・園芸作物の安定生産と経営管理能力の向上～

活動年次：令和3～7年

網走農業改良普及センター本所

1　課題設定の背景

対象：北見市柏木地区 6戸

てんさいの収量、ばれいしょの品質が低い
そうか病の発生を懸念し、ほ場のpHが低い
透水性の低いほ場が多く、粉状そうか病が発生
小豆の収量が不安定
基本的な栽培管理が徹底されていない
将来の労働力不足を懸念する農業者が多い

畑作物・園芸作物の安定生産
・土壌物理性・化学性の改善
・小豆の基本技術の改善
経営管理能力の向上
・経営分析（生産費集計）の実践
・労働補完システムの検討・実践

▶ **農業所得の維持・向上**

2　活動の経過

畑作物・園芸作物の安定生産

● 畑作物の収量・品質向上（土壌pH改善、小豆栽培管理の改善）

てんさい　：pH5.8を目標に石灰質資材の施用を提案
ばれいしょ：pHを改善した際のそうか病発生程度を確認
小　豆　　：施肥量・栽植本数の見直しと病害虫防除の徹底を提案

● 土壌物理性の改善（排水対策、有機物投入）
機械施工や麦稈全量すき込みによる
土壌物理性の変化、後作の生育・収量を確認

輪作体系も考慮した
pH改善を提案

経営管理能力の向上

● 経営分析（生産費集計）の実践
「農作物生産費集計システム」を活用し経営分析

● 労働補完システムの実践
作業委託した事例の費用や労働力の変化を確認

作物別に生産費を集計

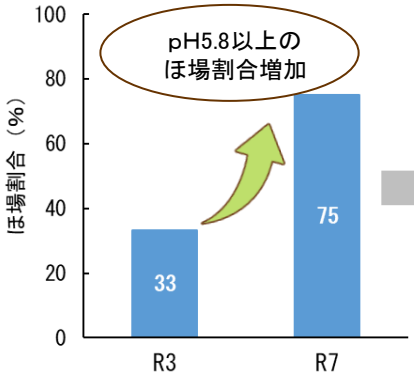
土壌物理性を調査

3　活動の成果

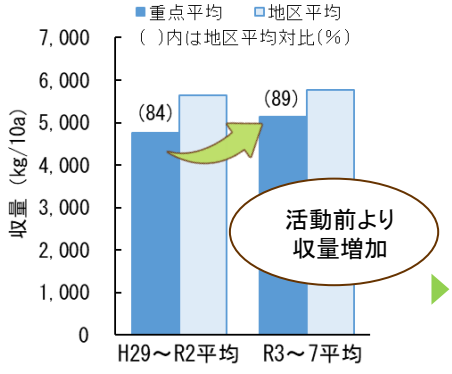
畑作物・園芸作物の安定生産

● 畑作物の収量・品質向上（土壌pH改善）
てんさい作付前に石灰質資材を施用

地区内で散布する融雪材を
pH改善効果の高い防散苦土炭カルへ変更



pH5.8以上のほ場割合推移
（てんさい作付前）



活動前後のてんさい収量

そうか病の発生は気になるけど
pH5.8なら大丈夫かな

普及員：そうか病の少ない畑は
pH6.0まで改善したいですね

現地研修会でそうか病の
有無を確認

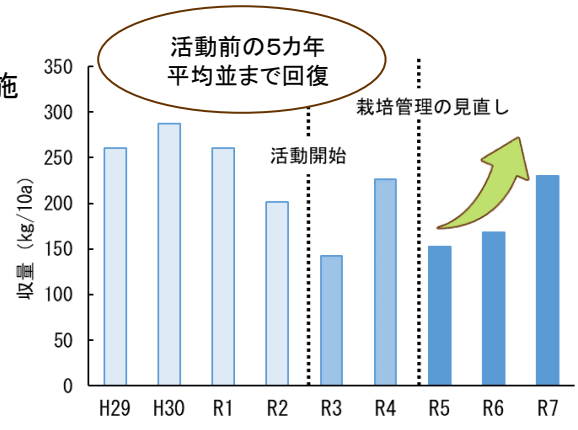
▶ 適正pHの重要性は
理解され、てんさい
作付前のpH改善は定着

＜技術の定着支援により経営安定を図る活動＞

● 畑作物の収量・品質向上（小豆栽培管理の改善）

基肥の減肥や栽植密度を調整
適期防除や病害虫の発生状況に合わせた防除を実施

現地研修会で生育状況を確認



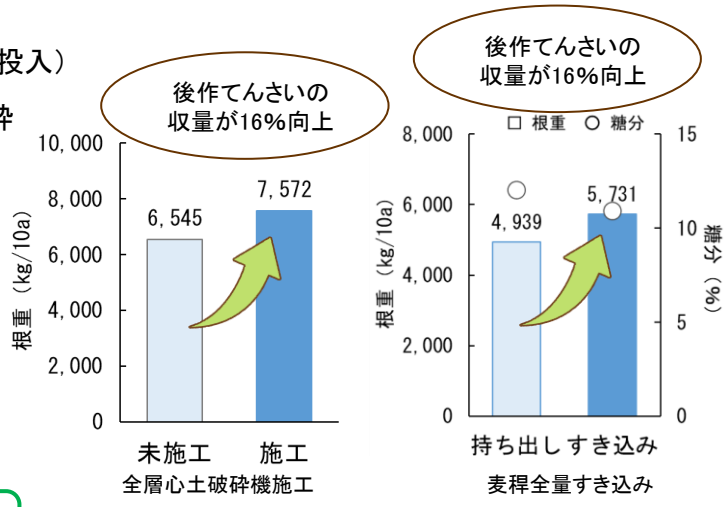
小豆の収量の推移

▶ 小豆の基本的な栽培管理は理解され、病害虫防除も徹底されつつある

● 土壌物理性の改善（排水対策、有機物投入）

全層心土破砕機を施工し、耕盤層を破砕
一部の農業者が麦稈を全量すき込んだ

機械施工の実演会で施工断面を確認



▶ 土壌物理性改善の重要性は十分理解され、
麦稈の全量すき込みは地域全体で実践されつつある

経営管理能力の向上

● 経営分析（生産費集計）の実践

農業者自らが栽培管理の改善による
経営の変化を確認

● 労働補完システムの実践

経営分析の結果を基に
ばれいしょや大豆の収穫作業をコントラ等に委託

▶ 経営分析結果を基に栽培管理を改善し、費用面の変化も確認できた
また、収穫作業委託の判断につながった

最終到達目標　地域一戸当たり農業所得の維持・向上

平成28年～令和2年：1,200万円 ▶ 令和3～7年：1,443万円（20%増）

4　今後の活動 **********

普及計画策定時の目標が概ね達成されたため、本年度をもって活動を終了する。